

# 館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 5 月 22 日(水)

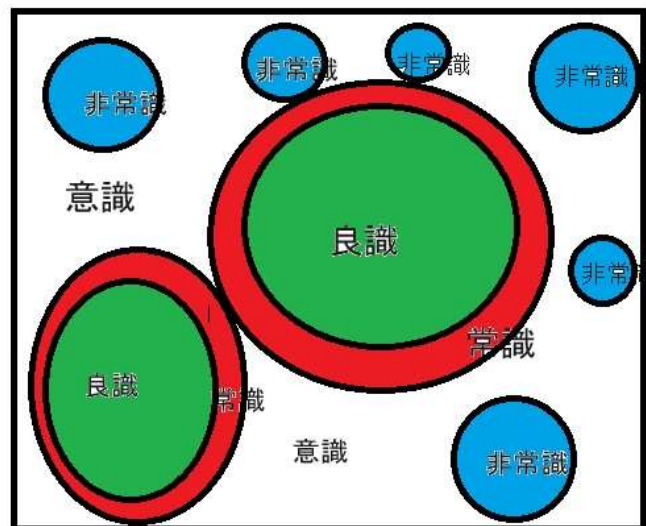
発行 館長 加藤 智 一

## 禪問答か？バカの科学

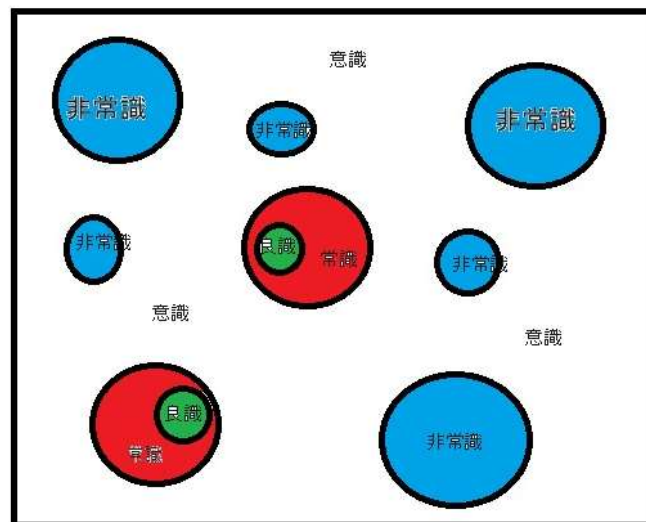
※バカとは馬鹿な事をするやつのことと定義しましょう※不適切ならお詫びします

5月18日朝日新聞天声人語より。  
 衆院東京15区補欠選挙に絡んで、つばさの党代表と落選した候補者の逮捕。  
 公職選挙法違反（選挙の自由妨害）。  
 党代表らは、他の候補者の演説を電話ボックスの上に座るなどして、大音量でやじる。  
 練り歩く他陣営につきまとう。  
 他から見ると明らかに選挙妨害。やりすぎです。  
 でも彼らはいう。表現の自由の中だと。  
 しかし、やじはすべて禁止しろというのは乱暴な議論です。  
 国会も野球もサッカーもつまらなくなるぞ  
 必要なのは最低限の「良識」とコラムでは説いていました。

私はこの記事を見るまでは、「良識」と「常識」はほぼ同じ意味だと思っていました。  
 実際に「良識ある行動」といいますし、「常識的な行動」ともいいます。  
 ですが、どうやら「良識」と「常識」では多少意味が違うようで、「良識」とは、物事を深く見とおし本質をとらえる、すぐれた判断力のこと。「常識」とは、世間一般の人が共通に持っている、社会通念上当たり前前の知識と判断力のことだそうです。  
 ですから「良識」とは、人間の高い能力のことで、具体的には、物事の「善悪」「正誤」「是非」などを見きわめて判断する能力のことです。  
 つまり、常識のない人に良識を解いても理解できるはずがない。また、良識のある人は常識を当たり前のこととして理解している節がある。  
 ですから、つばさの党の代表と候補者は常識に占める良識の領域が小さ過ぎるか、あるいはそもそも常識の領域が小さいということではないのでしょうか。  
 養老孟司先生なら「バカは相手にするな」とおっしゃると思いますが、バカは科学的あるいは哲学的に考察できる気がするのです。あながち無視してはいけない興味深いテーマだと思います。



常識人



非常識人

図. 常識に対する良識領域の違い  
 (加藤の勝手な解釈)

## 朝のテレ活

### あるバイオリン製作者の話

「私と同じ物を作れる人は、私と同じだけ失敗した人だ」(NHK ぶらり鉄道旅)